

講義名	財務分析論			授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本講義は、財務諸表の仕組みに関する内容（5回分）と財務分析の手法に関する内容（10回分）で構成されています。財務分析の部分は教員の解説の後、各自が選択した上場企業の財務諸表をもとに分析して頂き、その分析結果を発表する形で進めていきます。

到達目標

- (1) 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができるようになります。
- (2) 財務分析の基本的な手法が理解できるようになります。
- (3) 自身の分析結果を他人に説明できるようになります。

提出課題

ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。課題は、要件を満たした企業を選択し、財務指標を計算するものが数回含まれます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出した課題については、講義中フィードバックします。

評価の基準

定期試験は実施せず、提出した課題（40%）、テスト（30%）、発表（30%）で総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

財務諸表の分析手法を学ぶ科目ですので、日商簿記検定3級レベルの基本的な知識は必須です。「商業簿記」を履修済みであることを前提に講義を進めていきます。「商業簿記」を履修済みであることが望ましいです。簿記の初級者を対象とした科目ではないので、くれぐれもご注意ください。

教科書

.使用しない .				
----------	--	--	--	--

参考図書

.財務諸表分析(第3版).	乙政正太	同文館出版	3850	9784495193034

その他

<プリント資料>
講義中、配布します。

授業計画

- 第1回 ガイダンス・財務諸表の役割
- 第2回 貸借対照表 資産
- 第3回 貸借対照表 負債と純資産
- 第4回 損益計算書
- 第5回 キャッシュフロー計算書
- 第6回 連結財務諸表
- 第7回 収益分析
- 第8回 収益性分析
- 第9回 安全性分析
- 第10回 安全性分析
- 第11回 効率性分析
- 第12回 効率性分析
- 第13回 成長性分析
- 第14回 成長性分析
- 第15回 総括

以上の計画は、講義の進み具合によって少し前後する可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）し、講義終了後は当日内容の要点を整理し、理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

企業の会計情報を収集、分析するための高度な方法を身につけることができます。
卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：企業マネジメントにおける財務的な問題を見出し、解決策を提案するための基礎知識が身に付きます。

卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローについて分析することができます。

卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：財務分析の手法を身に付けることによって時系列的分析、同業他社との比較分析ができます。このような分析を通じて、企業が直面する問題や強みを見出し、経営戦略の構築に貢献することができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。

ICTの活用：Teamsを利用する予定です。

実務経験の有無及び活用

実務経験があります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思っております。

備考